

I. 事業の状況

1 総括

当研究所は、昭和41年の設立以来、わが国教育の刷新充実に寄与することを目的として、半世紀以上にわたり、研究助成等の事業を進めてきました。平成24年には内閣府から公益財団法人に認定され、学校などへの研究助成、研究成果の刊行、野外教育活動の推進のほか、医学・医療 e-ラーニングや世界点字作文コンクールなどの新たな分野へ公益事業を拡大しました。

本年度は、異常気象による風水害や新型コロナウイルス感染症の流行による影響を受けつつも、次の事業を行いました。

◎ 小・中学校や研究団体への研究助成では、小学校4校、中学校6校、2研究団体、1学会に助成を行いました。研究のキーワードをみると、「地域共育システム」「ノーメディアデーの推進」「主体的・対話的で深い学び」「ふるさと学習の充実」「リーディングスキルテスト」「メディアリテラシーと健康教育の創造」「中郷温水池を利用した理科教育」「スマホ使用のコントロール」「道徳教育としての動物介在教育」「大学から地域へ。科学的リテラシーを育む」「家庭教育に関する理論的・実践的研究」などでした。

◎ 前年度の研究成果は「教育研究情報」誌に掲載し、教育関係の諸機関・諸団体に教育資料として寄贈し、成果の普及を図りました。

◎ 野外教育では、開発した教材（アイオレシート）を使い、自然体験活動の指導者を養成する講習会を複数回開催しましたが、メインの講習会は台風のため初めて直前中止としました。「野外教育情報」ニュースレターを年2回発行し、関係諸機関・諸団体等へ寄贈しました。

◎ 医学・医療分野では、e-ラーニング推進の核となるMEDI@（メディアット）システムを中心にして、以下の支援を行いました。

日本小児血液・がん学会、日本リハビリテーション医学教育推進機構の研修会の講演・講義を収録し配信しました。

新たな学会等へのe-ラーニング導入では、日本外科学会、日本東洋医学会、日本がん治療認定医機構に支援・助力を行い、またスマホ利用によるドーピング検出アプリの開発支援を行いました。

専門医養成のためのe-ラーニングでは、日本癌治療学会や日本リハビリテーション医学会、日本泌尿器科学会に対しシステムの運用・管理を継続支援しました。他に医療現場と患者をつなぐ総合ヘルスケアアプリ、誤配薬防止システム開発への助成を行いました。

◎ 視覚障害者を対象とした「世界点字作文コンクール」の共同主催事業は、第17回目を実施し、国内・海外部門でそれぞれの優秀作品を表彰しました。入選作は点字本にて公共図書館に寄贈しました。

今後とも公益事業の着実な展開を図り、実りある成果を挙げていく所存ですので、ご指導とご支援をお願い申し上げます。

2 助成等事業概要

A. 研究実践校への助成

《時代の課題に応える研究、教育内容を深める研究、地域に根ざした意欲的な研究に取り組んでいる学校に対して、公募のうえ、助成を行った。》

《小学校》

- ① 総合学習 新潟県 新潟市立 亀田小学校 (津野治彦 校長)
〒950-0125 新潟県新潟市江南区亀田新明町1-1-46
テーマ 『地域と一体となって進める「カリキュラム・マネジメント」』
要旨 地域と一体となった「カリキュラム・マネジメント」を進めるには、どのような子どもを育てるのか地域と共有する必要がある、地域を活用した生活科や総合学習充実のため、学校と地域との情報交換が重要であった。
地域住民、保護者、行政職員、教職員等をメンバーとする「亀っ子応援隊」を組織し交流を図った。コミュニティ・ティーチャーと地域教育コーディネーターとの連携による教育活動の改善、地域とのつながりを深める学校行事の工夫なども行い、「地域共育システム」の構築を目指した。
- ② 一貫教育 静岡県 静岡市立 安倍口小学校 (高橋明人 校長)
〒421-2144 静岡県静岡市葵区安倍口新田50
テーマ 『心豊かなたくましい子を育てるために』
— 地域で取り組む「ノーマディアデー」 —
要旨 幼・保・小・中の12年間の縦の協力態勢を視野に入れた取組を行った。本校の重点目標「自信を持ち、チャレンジする子」を育てるため、選択制の課題を設け、子どもの意思で目当てをきめ、達成状況を振り返る場を設けた。保護者・地域への発信を行い、共通設定日において地域ぐるみで「ノーマディアデー」推進を図った。
- ③ 教科・領域 愛知県 愛西市立 永和小学校 (賀島美恵子 校長)
〒496-0921 愛知県愛西市大井町弥八115
テーマ 『かかわり合い、共によりよく生きる子の育成』
— 主体的・対話的で深い学びを実現する授業実践を通して —
要旨 予測の難しいこれからの社会を生き抜く子ども達には、課題を自分事として捉え、他者とかがわり合いながら最適解を見出していく力が欠かせない。そこで、対話力の基礎を培う毎週1回のトークタイム「エイトーク」の設定、児童一人一人に学びの目標をもたせる「エイワーク」の活用、「やってみたい」「知りたい」と思わせる導入の工夫、児童の「なぜ」「なに」を大切に展開の工夫などに取り組んだ。
- ④ 郷土教育 鹿児島県 指宿市立 徳光小学校 (山里浩美 校長)
〒891-0513 鹿児島県指宿市山川岡児ヶ水218-1
テーマ 『地域と関わり、社会とつながる「いぶ好きふるさと学」』
要旨 地域を素材にした学習「いぶ好きふるさと学」のカリキュラム開発を行い、地域協働活動を行うことで、郷土を愛し、誇りに思う心を育むことをめざした。地域は学習の場であり、学習の成果を発揮する場であるので、地域を素材とした「ふるさと学習」の充実を図った。地域はコミュニケーション能力を発揮する場でもあり、地域の人との関わりを重視し、地域を活用する指導計画の工夫を行った。

《中学校》

- ⑤ 国語教育 京都府 宇治黄檗学園 宇治市立黄檗中学校 (原田 繁 校長)
〒611-0011 京都府宇治市五ヶ庄三番割27
テーマ 『リーディングスキルテストを活用した「基礎的な読む力(読解力)」の育成』
要旨 数度の教員研修会で準備をした後、全生徒を対象に「基礎的な読む力(読解力)」を測定・診断するコンピュータを使ったリーディングスキルテストを実施した。これは「事実について書かれた170文字程度の短文を正確に読み取ることができる基礎的・汎用的な能力」を測定するものである。この実施結果の分析をもとに、教員間で結果を共有し、教科等横断的に読解力の向上につながる授業改善を進めた。
- ⑥ 健康教育 東京都 多摩大学附属聖ヶ丘中学高等学校 (石飛一吉 校長)
〒206-0022 東京都多摩市聖ヶ丘4-1-1
テーマ 『自らのからだを“知って・感じて・考える”メディアリテラシー・健康教育』
— 生徒保健委員会の取組・実践 —
要旨 子どもたちが電子メディアに触れる機会はますます増加しており、それをコントロールできる力を持つには、自らのからだを知って・感じて・考えるという取組を子ども自身が創造し、展開することが不可欠と考えた。研究では、本校の中学生・高校生と一緒に活動する生徒保健委員会を中心に、子ども自身がスマートフォン利用を管理できる力を身につけるメディアリテラシー・健康教育を創造し、その成果と課題を検証した。
- ⑦ 理科教育 静岡県 三島市立 南中学校 (竹林重行 校長)
〒411-0836 静岡県三島市富田町6-18
テーマ 『中郷温水池の環境教育的要素を盛り込んだ理科教育の推進』
要旨 農林水産省の「ため池100選」に選ばれた中郷温水池は、微生物、魚類、昆虫などによって食物連鎖が成り立ち、理科教材として価値がある。本校はこの池に隣接しており、常葉大学の加須谷先生の指導助言を得ながら、年間を通して動植物の種類や生態、水質検査、歴史的経緯について生徒が科学的見地で学び、この貴重な教育資源を利用する理科教育を推進した。
- ⑧ 健康教育 京都府 京都市立 栗陵中学校 (大由里昭彦 校長)
〒601-1362 京都府京都市伏見区醍醐池田町17-1
テーマ 『知っていますか? スマホのこと』
— スマホの使い方をコントロールして生活の質をアップしていこう —
要旨 スマホを中心としたメディア機器が、生徒の心やからだに与える影響についての学習活動やそれに至るまでの実態調査を行った。メディアに関する質問紙調査を実施し生徒のメディアとの関わりの実態をつかんだ。生徒・保護者・教職員へ向けての講演会でメディア機器が心身へ与える影響について学んだ。アンケート結果、講演会の概要については「保険だより」で生徒・保護者に啓発し、学校保健委員会では取組の全体を報告した。

計 1,600,000円

B. 教育現場への助成

《わが国の教育の刷新・充実に寄与するため、学校の教諭や大学教官等学校現場を主体とした研究団体・学会等に対して、公募のうえ、助成を行った。》

① 東京都／犬を介在した道徳教育研究会（代表者：内田友賀）

〒106-0045 東京都港区麻布十番4-6-8 二進ビル4階

テーマ 『道徳教育としての動物介在教育の有用性と汎用的実践手法の研究』

要旨 小学校低学年において、「犬」を学習に介在することで、生活科や道徳科の学習指導要領に沿ったねらいの深化をはかることを目的とした。外部講師による「ふれあい体験学習」と担任教員による「体験を生かして道徳性を育む学習」の総合的な道徳カリキュラムを、「動物介在学習カリキュラム」と位置づけて実施した。関東圏内12校、香川県2校、栃木県2校など、総授業回数28回を実施。事後アンケートから有用性、汎用性について検証を行い、課題については都度、改善を図った。

② 鹿児島県／鹿児島大学若手教員サイエンスカフェの会（代表者 加藤太一郎）

〒890-0065 鹿児島県鹿児島市郡元1-21-35

テーマ 『大学から地域へ 学びの意欲と科学リテラシーを育む教育』

—サイエンスカフェを通して—

要旨 8回の「サイエンスカフェかごしま」の開催を通して、地域に住む児童・生徒の学びへの意欲と科学リテラシー、地域内でのつながりを育んだ。最先端の研究の根底にある論理体系に触れることで、児童・生徒の思考力・判断力・科学リテラシーを育て、また、年齢・背景の異なる集団の中での協同的な学びを通して、豊かな表現力・コミュニケーション能力、学ぶことを楽しむ姿勢を育んだ。

③ 日本家庭教育学会

会長 中田雅俊（八洲学園大学教授）

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-1

テーマ 『家庭教育に関する理論的・実践的研究』

要旨 1986年の設立以来、家庭教育に関する学問的研究を促進し、実生活における家庭教育の普及や支援者養成を進めている。メインの大会（第34回）は「現代、家庭教育の重要性を考える」を主題として開催。丸山敏秋副会長の挨拶、11名の個人研究発表、永池榮吉氏の講演、パネルディスカッションなどを行った。他に「家庭教育研究25号」「家庭フォーラム30号」の発行、家庭教育師資格認定、家庭教育学構築のためのワーキンググループ研究会、家庭教育師・家庭教育アドバイザー交流会、会報発行など。

計 500,000円

C. 野外教育活動の推進

《野外教育活動〔とくに自然体験活動〕のいっそうの充実と推進に向けて、指導者養成の講習会を実施した。また、自然体験活動に関する情報と実践等を集めた「野外教育情報」ニュースレターを発行し、教育関係の諸機関・諸団体に寄贈し、知見の普及を図った。》

○ 野外教育活動の指導者講習会の開催

自然の中で、ゲーム的な要素も取り入れ、子どもたちが楽しく自然体験活動を行える指導方法（アウトドアゲーム）の普及及び、野外教育指導者の養成と指導技術の向上を図る目的で実施した。学校教育・社会教育・学生・民間団体の関係者などを対象に、独自に開発した

パッケージド・プログラム（アイオレシート）を教材として使用し、指導方法、安全管理、ゲーム創作などを含めて、実習形式で指導した。

しかし、メインの2泊3日コースは、開催直前に台風19号が襲来し、交通機関の混乱が予想されたためやむなく中止とした。他の2個所の講習会は予定通り開催した。

- ① 2泊3日コースの講習会 文部科学省・日本キャンプ協会の後援を得て、国立青少年教育振興機構の次の施設において、6人の講師による実施を計画し、1都12県から23名の参加者予定者があったものの、台風の影響により直前に中止とした。

令和元年10月12日～10月14日「国立那須甲子青少年自然の家」（福島県西白河郡）

- ② 1泊2日コースの講習会 北海道において、次の国立青少年教育振興機構の施設と連携して実施した。参加者8名。

令和元年11月9日～10日 「国立日高青少年自然の家」（沙流郡日高町）

- ③ 日帰りコースの講習会 新潟県において、NPO法人やまぼうし自然学校の協力を得て、次の施設で実施した。参加者13名。

令和元年10月31日 「国立妙高青少年自然の家」（新潟県妙高市）

○ 『野外教育情報』ニュースレターの発行・配布

野外教育に関する記事・情報を掲載した機関誌ニュースレターを、年2回発行した。

令和元年7月には第10号〔特集：下見〕、令和2年2月には第11号〔特集：あのとこのひとこと〕を発行して、教育センター・教育研究所、教育委員会（都道府県・主要都市）、青少年教育施設、小・中学校、大学、野外教育指導者・研究者など、約1,200個所に配布（寄贈）した。

計 2,057,275円

D. 医学・医療教育及び教育技術への研修支援・助成

《医学・医療分野での教育及び教育技術の充実・刷新に寄与するため、インターネットを利用した教育や研修（いわゆるeラーニング）を計画している学会・医療機関・大学等に対して、MED I@（メディアット）システムの導入と運用、データ管理、コンテンツ等の制作と配信などに対して支援を行い、この分野でのeラーニングの普及・展開をめざした。》

○ 総会・学術集会・研修会等のネット配信のためのコンテンツの制作

次の各医学会の研修会での講義・講演を収録・編集して、インターネット上に配信するコンテンツを制作し支援した。

- ① 一般社団法人日本小児血液・がん学会の3回（7月・9月・11月）にわたる、長期フォローアップ研修会の収録・編集、コンテンツ制作、配信、受講履歴の管理を行い、支援した。

- ② 一般社団法人日本リハビリテーション医学教育推進機構の京都国際会館にて開催された、急性期医療におけるリハビリテーション関連専門職研修会を撮影・編集したコンテンツ18本の制作を行った。

○ 医学会などのeラーニング利用等への支援

- ① 一般社団法人日本外科学会のeラーニングのシステム開発（会員向けと非会員向けの2様式）を行い、保守並びに運用、視聴履歴管理等で支援した。

- ② 一般社団法人日本東洋医学会に対して、eラーニングのシステム導入、運用・管理、コンテンツ制作などの支援を行った。

- ③ 一般社団法人日本がん治療認定医機構のeラーニング「認定医教育セミナー」の講演配信サービスのシステム導入、運用・管理、コンテンツ制作などの支援を行った。

- ④ その他、スマートフォンを利用して、身近な薬品やサプリメントから「ドーピング」の禁止薬物を即座に検出するアプリをオンキョースポーツの協力を得て開発した。

- 学会の専門医養成のための e-ラーニングへの支援
 - ① 一般社団法人日本癌治療学会が運営する「がん医療を専門とする医師・チームスタッフのための e-ラーニングプログラム」(CANCER e-LEARNING) のコンテンツの制作と配信を行った。
 - ② 公益社団法人日本リハビリテーション医学会の教育・研修及びリハビリテーション科専門医資格更新の単位取得、修了証発行を目的とした配信サービスを行った。
 - ③ 一般社団法人日本泌尿器科学会の専門医単位更新を目的とした講演配信サービスのための e-ラーニングシステムの整備、視聴履歴の管理、コンテンツの制作など、その整備・配信を引き続き支援した。
- 医療現場と患者をつなぐ総合ヘルスケア：スマホアプリ、誤配薬防止システムの開発への助成

生活習慣病の患者や予備軍と医師・看護師など医療従事者、医療教育機関とをスマートフォンを利用しインターネットでつなぐアプリケーションを計画し、継続的に治療、診察、投薬、退院後の定期的観察、確認、情報交換、e-ラーニングにより最新の医療情報やエビデンスに接続できる連携ツール「つながるカルテ」の開発、医療現場で発生する薬の誤配防止のための画像解析技術を用いたITシステムを開発するため、中島健城代表（オンキョースポーツ株式会社）に対して、助成を行った。

計 54,561,872円

E. 研究報告誌の刊行・配布

《前年度に研究助成を行った研究成果を掲載した研究報告誌を年1回発行し、教育関係の諸機関・諸団体に寄贈し、成果の普及を図った。》

『教育研究情報』第51号（前年に研究助成を行った、研究実践校・研究団体・学会の研究成果と実践報告を掲載したもの）を令和元年10月に発行し、教育センター・教育研究所、教育委員会、青少年教育施設、大学、小・中学校（一部）など、教育関係の諸機関・諸団体約800個所に配布（寄贈）した。

計 646,694円

F. 世界点字作文コンクールへの支援

《視覚障害者の方々に点字と音声の架け橋を築く願いをもって、毎日新聞社点字毎日・オンキョー株式会社との共催で、第17回コンクールを実施した。》

国内部門では、応募総数108編を選考の結果、最優秀オーツキ賞には東京都の木川友江さん、「作詞賞」には愛媛県の宇佐 亮さんが受賞した。

海外部門では、アジア・太平洋地域13か国54編、西アジア・中央アジア・中東地域 11か国43編、ヨーロッパ地域11か国28編の応募があり、それぞれ選考を行い優秀作品を表彰した。入選作品集の点字本は全国の公共図書館などに寄贈した。

計 4,000,000円

[その他の事項]

一般社団法人日本専門医機構が「日本における専門医制度を整備し、質の高い専門医を育成して広く国民の健康に寄与するための事業資金を目的」とした基金（第1号基金）を募集し、当財団法人にも協力要請があった。当財団法人は医学・医療教育への支援を推進していることもあり前向きに検討し、令和2年1月の臨時理事会の決議により、オーエス・ホールディング株式会社からの特定寄附金3,000万円をもって基金に応募し、日本専門医機構の今後の発展を支援していくことになった。なお、基金には利息はつかず、5年間は返還請求ができないなどの制約がある。

II. 処務の概要

1. 役員に関する事項

【 理 事 】

(令和2年3月31日現在)

	氏 名	区 分	就任年月日	現 職 等	備 考
理事長	大脇 直人	常 勤	平成30・5・31	オンキヨー(株) 名誉会長	平成22・12・9
理 事	赤羽 正己	非常勤	”	(株)プロストホールディングス 代表取締役	” 18・4・1
”	大脇 宗徳	非常勤	”	オンキヨー(株) 代表取締役社長	” 22・12・9
”	岡本 行夫	非常勤	”	(株)岡本アソシエイツ代表取締役	” 23・4・1
”	加藤 治文	非常勤	”	東京医科大学 名誉教授	” 30・5・31
”	高 崎 健	非常勤	”	東京女子医科大学 名誉教授	” 28・5・26
”	竹田 幸男	非常勤	”	(株)文理 元専務取締役	” 18・4・1
”	椿 勲	非常勤	”	椿勲公認会計士事務所 代表 常任理事	” 22・12・9
”	土井 浩信	非常勤	”	淑徳大学 名誉教授	” 12・4・1
”	中村 育夫	常 勤	”	東京女子医科大学 元事務部	” 28・5・26
”	福岡 政行	非常勤	”	東北福祉大学 特任教授	” 22・12・9
”	森 勇	常 勤	”	(株)上総モナークカントリークラブ 前代表取締役 常任理事 事務局長	” 24・5・28

(備考欄：初任年月日)

- ① 平成30年5月31日開催の定時評議員会において、新任理事1名と任期満了に伴う重任11名について、理事選任の決議が行われた。6月8日付けで東京法務局での理事変更登記の手続きが完了し、6月29日付けで内閣府に変更届出書を提出した。
- ② 平成30年5月31日開催の理事会において、代表理事（理事長）の選定を行い、6月8日付けで東京法務局での代表理事変更登記の手続きが完了し、6月29日付けで内閣府に変更届出書を提出した。

【 監 事 】

(令和2年3月31日現在)

監 事	大平 健司	非常勤	平成30・5・31	大平健司公認会計士事務所代表	平成23・4・1
”	近田 直裕	非常勤	”	近田公認会計士事務所 代表	”

(備考欄：初任年月日)

- 平成30年5月31日開催の定時評議員会において、任期満了に伴う重任2名について、監事選任の決議が行われた。6月8日付けで東京法務局での監事変更登記の手続きが完了し、6月29日付けで内閣府に変更届出書を提出した。

【 評 議 員 】

(令和2年3月31日現在)

	氏 名	区 分	就任年月日	現 職 等	備 考
評議員	大拙 時久	非常勤	平成28・5・26	オンキヨー(株) 元会長	平成22・12・9
”	岡田 八郎	非常勤	”	上総ターカントリークラブ 元代表取締役	” 22・12・9
”	佐藤 貢悦	非常勤	”	筑波大学 教授	” 12・4・1
”	西村 正宏	非常勤	”	(株) キバンホールディングス 代表取締役	” 28・5・26
”	畑 史郎	非常勤	”	(株)文理 前代表取締役会長	” 28・5・26
”	北條 良彦	非常勤	”	オンキヨー(株) 元特命担当	” 23・4・1
”	丸山 敏秋	非常勤	”	一般社団法人倫理研究所理事長	” 15・5・23

(備考欄：初任年月日)

- 平成28年5月26日開催の定時評議員会において、評議員選任の決議が行われ、平成28年6月8日付けで東京法務局に評議員変更登記の手続きを完了し、7月5日付けで内閣府に変更届出書を提出した。

2. 役員会に関する事項

(1) 理事会

開会年月日	議 事 事 項	結 果
元年 5月15日	1) 平成30年度事業報告及び収支計算書類等の承認の件 2) 第11回(通算111回)定時評議員会招集の件	原案通り可決承認 "
2年 2月 6日	1) 一般社団法人日本専門医機構の第1号基金の募集に応じ、30口 3,000万円の拠出をすること。原資は、オーエス・ホールディング株式会社からの寄附金によること 2) 提案を可決する旨の決議があったとみなされる日は、令和2年2月6日とすること	原案通り可決承認 "
2年 3月24日	1) 令和2年度事業計画及び収支予算案並びに資金調達及び設備投資の見込みの承認の件	原案通り可決承認

(2) 評議員会

開会年月日	議 事 事 項	結 果
元年 5月30日	1) 平成30年度財務諸表(計算書類等)の承認の件 2) 役員等の報酬並びに費用に関する規程の一部改訂の件	原案通り可決承認 "

3. 寄付金に関する事項

寄付の目的	寄 付 者	申込金額	領収金額
助成等事業推進	オーエス・ホールディング株式会社 (代表取締役社長 大脇直人)	40,500,000	40,500,000
"	株式会社 文理 (代表取締役社長 山川博昭)	500,000	500,000
(一社)日本専門医機構の基金に使用	オーエス・ホールディング株式会社 (代表取締役社長 大脇直人)	30,000,000	30,000,000
	合 計	71,000,000	71,000,000

令和2年度事業報告 附属明細書

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」
第34条第3項に規定する「事業報告の内容を補足する重要な事項」はない。

令和2年5月20日

公益財団法人 日本教育科学研究所